

南日本新聞の「若い目」に、本校生徒が掲載されましたので紹介します。

ひろば 若い目特集

自らと向き合い書の追求続ける

薩摩中央高2年

橋之口萌絵

私は高校で書道部に入り、書道を始めました。「隸書」という書体を毎日練習しています。

独特な書体でもあり、慣れるのに苦労し、参加した揮毫大会で他校生の作品の隣に並ぶ自分の作品を恥ずかしく感じたこともあります。納得する字が書けず、「筆を持つ

ことさえ嫌だ」と感じた時もありました。それでもくじけず顧問の指導を受け、書き続けました。

書と向き合う時間は自分と向き合う時間でもあります。私は集中したら突き進んでいけますが、だめなことがあるとすぐに諦めてしまいます。書道を通して長所や短所に気づき、少し成長するところができたと思います。

先日、広島県熊野町で開催された「ふれあい書道展」で、1万数千点の出品作品の中から特別賞に次ぐ「筆都大賞」に選ばれました。これまでの努力が報われた気がして自信につながりました。卒業した3年生に代わ

って部長を務めていまして書道部の仲間たちです。書を追求し続けたいです。(ましま町)